

代表からのご挨拶

サンライズ・メイト・バート株式会社
代表取締役 井上 明美



いつも皆様方には、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ようやく過ぎやすい季節となりスポーツの秋到来ですが皆様方はいかがお過ごしでしょうか？スポーツといえば「グラチャンバレー女子」中田久美新監督率いる「中田ジャパン」。世界との戦いに胸躍る

思いで観戦していたのは私だけではないと思います。何故強くなったのか・・・世界と戦う為、日本人の特性を生かし機動力を重視した結果だと分析されております。

一人一人の特性を生かすのはスポーツだけではなく、介護業界も同じだと感じてます。弊社でも職員一人一人の個性を生かし、他の事業所では提供できない介護を目指していけるようにと心に強く誓ってます。

これからの季節、朝夕冷え込んでまいりますのでお身体にお気をつけてくださいませ。

サンライズの物語

ご本人の生きる力、そして回復すると願う
ご家族の強い思いが起こした、奇跡の物語



その方は他のケアマネが退職する理由で7月に交代した方でした。

次男さんと住んでおり介護をされていましたが、初夏の暑さからか自宅で倒れていたのを発見。緊急搬送した結果、脳梗塞と診断されました。

嚥下障害もあり中心静脈栄養法（IVH）を余儀なくされ、主治医からは他の病院への移動を求められていました。次男さんからの相談で自宅近所の病院への移動を提案し転院。ご本人にお会いした時は全く応答もない状態でした。

しかし次男さんの強い希望で「自宅へ戻す」との意向により、担当医の方から説明を聞きに同席した時の事でした。次男さんより思いもよらない提案があったのです。

「もう一度口からの食事摂取を試みて欲しい。駄目ならお父さんも私も諦めます」との内容に担当医と私は驚きを隠せませんでした。

担当医もご家族様の意向であれば、と院内で経口摂取の試みが始まったのでした。

ゼリー食、ミキサー食と次々とハードルをクリアーし、2週間足らずでなんと、常食になったではありませんか。勿論、中心静脈栄養は外されました。まさに奇跡としか言いようのない回復力でした。

退院となった当日、自宅で次の奇跡が起きたのです。

通所介護の職員がベットから本人を手引きで立ち上がらせた時、歩き始めたのです。

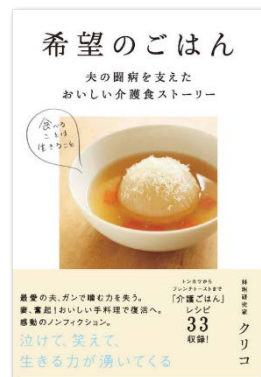
その場に居た介護事業所の皆様より歓声が上ったのはもちろん、次男さん始め皆様で顔を見合わせ笑い出していました。私も「ビックリポンだよ」と言ってしまいました。ご本人の生きる力、そして回復すると思っ次男さんの強い思いに感動した瞬間でした。次男さんとの「今日はお祝いだからお寿司を食べようね」「〇〇ちゃん、有難うねえ」と会話を聞いた時になんとも言えない思いに駆られました。

ご利用者様お一人お一人の生きる力とご家族様の強い思いに勝るものはないと・・・少しでもお力になる事ができればと介護職としての役割を心に刻みました。

希望のごはん 夫の闘病を支えたおいしい介護食ストーリー

著者：料理研究家 クリコ

おいしいものを食べるのが大好きだった夫が口腔底ガンを患ったことにより、手術によって噛む力を失い、固形物が食べられなくなり、あごと舌だけで食事をする生活に。妻は最愛の夫のために、見た目にも食欲をそそって、食べてもおいしい介護食を生み出すべく奮起。泣けて、笑えて、生きる力が湧いてくる——。感動のノンフィクション介護食ストーリー。



NEWS 今月のニュース

声かけ「ありがとう」 使用者の会がシール配布

全日本盲導犬使用者の会は、盲導犬を連れた目の不自由な人に声をかけてくれた場合、感謝の気持ちを込めてシールを渡す「ありがとう運動」を28日から始めた。

同会の郡司ななえ会長（72）は「盲導犬使用者の安心・安全や、誰にでも優しい社会へとつながっていけば」と話している。

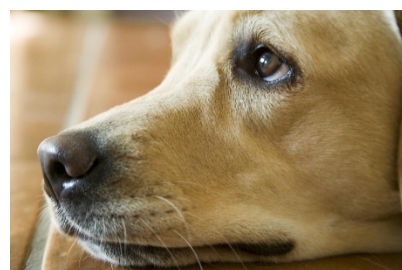
盲導犬使用者の痛ましい事故が相次いでいることが、運動の発端

になった。徳島市では一昨年、全盲男性と盲導犬が、警報音を鳴らさずに後退してきたダンプカーにひかれて死亡。昨年8月には東京メトロ・青山一丁目駅（東京都港区）のホームから、盲導犬を連れた男性が転落して電車と接触し、死亡する事故もあった。

シールには声をかけてくれた人への「ありがとう」の言葉とともに、盲導犬のイラストが描かれている。盲導犬使用者の約3分の1に当たる全国305人の会員が、親切にしてくれた人に手渡す。

郡司さんによると、集中力を欠くため盲導犬に話しかけることはしてはいけないが、「盲導犬使用者にも話しかけてはいけない」というのは誤解だという。

「立ち止まってキョロキョロしていたら『何かお困りですか？』と声をかけてもらえたら助かる」と話している。



< 毎日新聞 年8月29日（火） >

スタッフ紹介



藤田 拓巳
(サービス提供責任者)

医療知識が豊富で、様々な場面で助言をしてくれる心強いスタッフです。ご利用者様へのお声がけがとてもやわらかいのが特徴で、藤田さんならではのご利用者様との関わり方には、学ぶことが多くあります。

以前はグループホーム、特別養護老人ホームに勤務しておりました。小さい頃から高齢者の方々と関わるのが大好きだったことをきっかけに、介護という仕事に携わることとなりました。在宅は初めてですが、ご利用者様お一人おひとりの気持ちに寄り添い、先輩職員の皆様から助言を得ながら、成長していきたいと思っています。今後とも、どうかよろしくお願ひいたします。

広報誌「ライジング・サン」のバックナンバーは、弊社ホームページでもご覧いただけます。

ぜひお立ち寄り下さいませ。 <http://www.samaba.jp/back-number/>